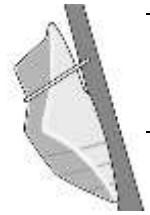




さくらももこさんから学ぶ「さなぎ的高校生活」



8月の終わりに、「ちびまる子ちゃん」の作者として有名なさくらももこさんが、53歳という若さで亡くなっていたことがニュースになりました。

さくらももこさんが自分をモデルにして描いていたと言われるちびまる子ちゃんはアニメにもなり、おもしろくて、でもときどき心がじんと暖くなる内容で、今も人気は衰えていません。

でもさくらももこさんの作品の中で、わたしが一番心に残っている作品はちびまる子ちゃんではなく、「ひとりずもう」という、自身の小学校高学年から高校を卒業し、漫画家になるまでを描いたものです。

そこにはアニメに出てくるちびまる子ちゃんのような底抜けに明るい学校生活ではなく、大人になるのにとまどい、自分探しに悩み、ついには自分の長年の夢だった漫画家デビューを果たすまでのさくらももこさんの心の変化が丁寧に描かれているからです。

この本によれば、さくらももこさんの高校生活は、華やかなものではありませんでした。部活といえば、やりたいものを選ぶのではなく、一番楽ですぐに帰れる部活。

しかも文化祭の準備などがあるにもかかわらず、夏休みには一日も参加しない。

部活の発表の場であり、高校生活ではとても華やか文化祭の当日は、無断で家に帰ってテレビを見る。

夏休みも冬休みも春休みも、友だちが旅行やバイト、遊びを楽しんでいる中、だらだらとテレビを見たり漫画を読んだり絵を描いたりして家で過ごすのが一番楽しい。

人ごみも集団行動も苦手で、がやがやした中にいると頭が痛くなる・・・

彼氏もできず、将来やりたいことも決められず、行事にも無関心。



家が好きだけど、かといって学校を休むわけでも、勉強で赤点を取るわけでもなく、友だち関係もなんとなくうまくこなし・・・



周りの友だちがキラキラと青春を楽しんでいるのをまぶしい思いながらも、自分がそうなりたいかといえばそうでもなく・・・でも突然男の子に恋をしたり、おしゃれを試みたり、将来のこと、夢のことを考えてみたり・・・

でも外から見たらそんなことはわからなくて、お母さんの言葉を借りれば「のろま」で「なまけもの」で「手伝いもしない役に立たない子」で「何を考えているのかわからない子」だったようですが、そんな目立たない高校生活の間、さくらももこさんは、何もしていないように見えた時間に、ずっと自分と向き合っていました。

そして幼虫がさなぎになってその中で大変身をしていくように変化し成長し、ついには漫画家としてデビューすることになるのです。

何もしないでごろごろばかりしているとお母さんに心配されていたさくらももこさんが、働きすぎて体が心配だ・・・と言われるほどに大きく変わったのです。



実は、中・高校生時代は、「自分って何なの?」「自分は何がしたいの?」「自分は何になりたいの?」「自分には何が合っているの?」・・・と、自分自身に気持ちが向けられる時期です。

また、自分が周りの人からどう見られているのか・・・ということも、とても気になるようになります。

その一方で「自分で選ぶ(決める)」ことが増え、進路のこと、恋愛のことなどでも悩むことが多くなります。そんなときに大切なのが、何でも話せる友だちの存在で、さくらももこさんでいえば、たまちゃん（注：ちびまる子ちゃんに登場するキャラクター）の存在が大きかったと思います。

そんな友だちの支えがありながら、ときには大切な友だちとの別れも経験しながら、最終的にはひとりで自分探しをして、自分で将来を決めていく。

さなぎが殻の中で自分を削っていくように、すごく孤独で不安な作業なので、悩んだり苦しくなったりするわけですが、最後には自分の力で外に出て蝶になるように、自分の力で答えを見つけていくことがとても大切なのです。



でも今は孤独になったり、ひとりで自分と向き合うのが難しい時代です。

「ぼっち(ひとりであること)」が悪いことのように思われがちです。

特にツイッターやインスタなどの SNS によって、周りからどう見られるか、どうしたら周りから良く見てもらえるかばかりに目が向いてしまい、自分はどう思うのか、自分は自分をどう見ているのか、自分は何をした

いのか・・・がわからなくなってしまったり、他人の評価に振り回されてしまうことも多いように思います。

また、スマホによって、すぐに他人と「つながれる」、「暇をつぶせる」ことで、何かを考えたり自分の中で試行錯誤して悩んで答えを出す時間も、少なくなっているのではないのでしょうか。

ツイッターでのつぶやきや、だれかのささいな一言に振り回されたり、インスタ映えや、リア充、キラキラとした他人の高校生活と現実の自分とのギャップに苦しんでいる橋高生も多いようですが、さくらももこさんの「さなぎ的高校生活」を思うと、そのつらさや苦しさは決してむだではないのではないかと、思うのです。



苦しいとき、悩んだとき、本に出会うことで新しい考え、思いがけない答えに出会うことがあります。また、それまでと違う価値観や世界に触れることで、自分が変わることもあります。また人に相談することで、人に支えてもらうことで、苦しい時間を乗り越えることができます。ですから、楽しいだけの毎日を送るだけではなく、時々ほちどまって周りを見回し、自分と向き合ってみてください。

そして今苦しい人は、他の人に助けをもらいながら自分の力で乗り越えていきましょう。

橋高校で過ごす中で成長し、卒業するときには自分で殻をやぶって飛び立つことができるように、保健室ではあなたを応援しています。

